

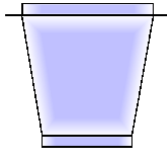
IgG 抗体精製用ファンネルタイプ

Ex-Pure ProA 取扱説明書

本製品は均一な連続孔を持つフィルター型モノリスシリカを固相表面に、(独)産業技術総合研究所の技術を用いてプロテイン A を固定化しております。両技術により、簡単に短時間での IgG 抗体精製を可能にしました。

1. はじめに

開封されましたら梱包内容、チップの概観、数量、溶媒などに異常がないかお確かめ下さい。



・モノリスシリカファンネルカラム

1 個



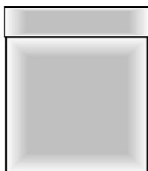
・GL45 ボトル用バキュームポート(裏面にガスケット付属)

1 個



・吸引チューブ用アダプター

1 個



・保存用ケース (開封時は 20%エタノール溶液が入っております)

1 個

・取扱説明書 (この紙)

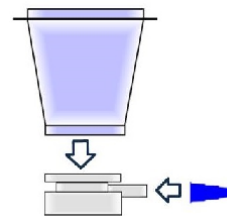
1 部

2. 取扱いの注意

- シリンジカラムを落としたり、ぶついたりしないでください。強いショックを与えるとモノリスゲル及びカラムとの接合部が外れる、又は壊れることがありますのでご注意ください。
- バキュームポート裏面のガスケットを洗浄等で外す場合は破損に十分ご注意ください
- 使用しないときは冷蔵で保管してください。モノリスシリカゲルを乾かさないようにカラム内のモノリスが浸る高さぐらいまでを 20%エタノールで満たし、横にならないように保管ください。カラム性能が低下する場合があります。

3. 操作例

ステップ 1) ファンネルカラムをケースから出し、カラム内の保存液があれば廃棄する。アダプター上部 (放射状のスリットが付いた方) をカラムの下部に差し込みチューブアダプターを差し込む。



ステップ 2) GL45 規格のボトルにアダプターを取り付けチューブアダプターに吸引ホースを差し込む (ボトル容積は 250mL 以上とし、抗体のアプライ量に応じて大きくすることが可能です)

ステップ 3) 吸着溶液を 50 mL 加え、0.02 ~ 0.04MPa 程度で吸引する。

ステップ 4) 250mL 以内の抗体試料をアプライし (試料の pH を 7 付近に調整しておく。吸着溶液でよい)、0.02 ~ 0.04MPa 程度で吸引する。濃縮精製を行う場合は、抗体吸着限界量を超えない量であれば連続してアプライすることが可能です >

ステップ 5) 洗浄溶液を 50 mL 加え、0.02 ~ 0.04MPa 程度で吸引し通過した溶媒は棄てる。

ステップ 6) きれいな GL45 規格の 250mL ボトルに中和溶液を 5mL 入れておき、カラムに溶出溶液を 50 mL 加えて 0.02 ~ 0.04MPa 程度で吸引し、通過液を回収する。

再使用する場合)

ステップ 7) 再生溶液を 50 mL 加えて 0.02 ~ 0.04MPa 程度で吸引する。

ステップ 8) ステップ 1 の吸着溶液を加えるところから行う。

※ 通液できる抗体試料の液量は、試料濃度により変わります。

※ 使用溶液

- ・吸着溶液 : 50 mM リン酸ナトリウム緩衝溶液+150 mM NaCl (pH7.0)
- ・洗浄溶液 : 50 mM リン酸ナトリウム緩衝溶液+1 M NaCl (pH7.0)
- ・溶出溶液 (ProA) : 100 mM グリシン-HC I緩衝溶液 (pH3.5)
- ・再生溶液 : 100 mM グリシン-HC I緩衝溶液 (pH2.5)
- ・中和溶液 : 1 M Tris-HC I緩衝溶液 (pH8.5)

以上 5 本の溶液がセットになった溶媒キット (EY-S01) が追加でご購入頂けます。

4. 保管について

使用しない時は冷蔵で保管してください。モリスシリカゲルを乾かさないようにスピンカラム内を 20vol%エタノールで満たしてください。カラム性能が低下する場合があります。

なお、本製品は研究目的で製造しております。研究目的以外でのご使用に関しては保証いたしかねます。